



## 津島神社宝物館

いにしえより「西の祇園、東の津島」と云われるように、京都の八坂神社とならぶ牛頭天王信仰の拠点として名高い津島神社。尾張地域から輩出した織田信長、豊臣秀吉や歴代の尾張藩主の崇敬をうけ、さらには江戸時代御師の廻壇により東海以東の東国地域を中心に多くの参拝者がありました。

またこの地方の夏の風物詩として知られ、毎年7月の第4土曜日とその翌日曜日に催行される「尾張津島天王祭」は、重要無形民俗文化財であり、ユネスコ無形文化遺産にも登録されています。

津島神社宝物館は、歴史ある神社の宝物を収蔵する施設として、1972（昭和47）年に竣工しました。

大原真守作太刀といった重要文化財、鎌倉時代作といわれる鉄燈籠、天正期の銘をもつ石造狛犬といった県指定文化財の他、楼門を寄進した豊臣秀吉朱印状等を展示しています。

現在、リニューアルの準備や収蔵資料整理のため休館中ですが、2026（令和8）年の国幣小社昇格100年に向けて開館を目指しています。

---

## 目 次

●令和6年度 研修会のご報告	
職員等研修会「職員等研修会「豊田市博物館、豊田市美術館の施設見学」	2
職員等研修会・令和6年度東海三県博物館協会研究交流会	
「今！行く博物館の災害対策！－東日本大震災後の東北の取り組みから－」	3
●表紙館のご紹介	5

---

## 令和6年度 研修会のご報告

### 職員等研修会「豊田市博物館、豊田市美術館の施設見学」

2024年4月に新たに開館した豊田市博物館は、市民や地元企業との協働のあり方や、その魅力的な建築などが博物館関係者の注目を浴びた施設である。企画展の開催に併せ、隣接の豊田市美術館と一体感のある空間も含めて観覧する研修会を実施し、38名の参加があった。

最初に高橋秀治美術館長から、当日開催中の企画展「しないでおく、こと—芸術と生のアナキズム」では、あえて「しないでおく」ことの可能性も含めて創造する人々の実践を紹介していること、また、コレクション展では、Living（生活、生きること）とRooms（部屋）をキーワードに、クリムトやシーレの作品をはじめとする豊田市美術館のコレクション（絵画、写真、映像、彫刻など）を紹介していると説明していただいた。

次に、村田眞宏博物館長より、令和6年4月26日にオープンしてから当日開催中の「旅するジョウモンさん」を開催するに至るまでの経緯や、庭園でつなぐ美術館と博物館のデザインの話し、何よりの特徴である「みんなでつくりつづける博物館」のコンセプトのもと、市民の参加により様々な事業を行っていることなどをお話しいただいた。

研修会後半は、2班に分かれて豊田市博物館の常設展示室の観覧とバックヤードの案内を受け、その後、自由見学にて美術館・博物館の企画展を鑑賞した。

常設展示室でまず目につくのは天井まで届く大きな展示ケースで、その中には古い生活用品から、市民とともに制作した昆虫標本、工場で使われていた道具など、豊田市にまつわるものが展示されていた。

バックヤードでは、白を基調とした透明感のある建物の中、まだ収蔵品の入っていない収蔵庫や、現在開催中の企画展準備のために使用された倉庫等を見学し、倉庫を地下ではなく上階に設置した経緯など説明していただいた。今後、改修・改築を予定される博物館・美術館等の施設にとって大変参考となる機会となった。



高橋美術館長のお話し



村田博物館長のお話し



収蔵庫見学の様子①



収蔵庫見学の様子②

(山下恵広、武豊町歴史民俗資料館 館長[研修当時]／山下智也、刈谷市歴史博物館 学芸員)

## 職員等研修会・令和6年度東海三県博物館協会研究交流会

### 「今！行う博物館の災害対策！－東日本大震災後の東北の取り組みから－」

令和7年2月28日（金）に愛知芸術文化センターのアトスペース A にて職員等研修会・東海三県博物館協会研究交流会「今！行う博物館の災害対策！－東日本大震災後の東北の取り組みから－」が開催された。

今回の研修は、東日本大震災後の東北発博物館・文化財等防災力向上プロジェクトの取り組みや各館の事例から今行うべき災害対策について学び、グループトークセッションで近隣の施設と災害対策の情報共有を行うと共に、すぐにでもできる現実的な災害への備えを考えることを目的として開催した。対面、オンラインのハイブリッド型で行い、愛知県博物館協会、東海三県博物館協会合わせ、53人（会場45人、オンライン8人）の参加があった。

最初に岩手県立博物館専門学芸調査員の目時和哉氏の講演「東北発 博物館・文化財等防災力向上プロジェクトの取り組み」が行われ、東日本大震災で岩手県内最大の文化財被災地となった陸前高田市の事例から、震災後の文化財レスキューの実態や課題、プロジェクトの取り組み、防災の担い手の育成の必要性などについてお話しいただいた。支援を受ける側の課題や共助の意識づくりなど、日頃の災害への取り組みを見直すきっかけとなる内容だった。

次に、事例報告としてオンラインにて「沿岸部の博物館における災害対策－石巻文化センターの津波被害から考える－」（石巻市博物館学芸員 泉田邦彦氏）、「仙台市博物館の地震被害と災害対応事例」（仙台市博物館学芸企画室長 酒井昌一郎氏）、「宮城県気仙沼市・南三陸町から リアス・アーク美術館の事例『東日本大震災、Before After』」（リアス・アーク美術館館長 山内宏泰氏）をそれぞれお話頂いた。文化財レスキューを受ける側の課題や震災に備えたハード面の整備や調査データの分散保管や公開の必要性、発災からの復旧までの具体的な対応、美術館やアートが被災地に果たすことのできる役割など、経験を交えた詳細な報告で災害への理解が深まる内容だった。

最後に、「博物館の水害対策」「博物館の防災と近隣館とのネットワーク」「博物館の防災と地域住民」の3つのテーマに分かれ、参加館と講師でグループトークセッションを行った。その際愛博協初の試みとして、オンラインでの報告者、参加者も現地セッションに参加できるハイブリッド形式をとった。zoomのアウトブレイクルーム機能を使用して行い、非常に好評であった。参加館は、自館の防災の取り組みや課題、懸念などを話し合い、平時からどのような防災対策を考えるべきか、自身の館ですぐにでも始められる事は何かを議論していた。本研修は愛知県、岐阜県、三重県の三県からの参加があったこともあり、他県の取り組みを知り情報交換が行われたことも非常に有益な場となった。

グループトークセッションの後は各グループで話しあった内容、出た意見をファシリテーター役の参加者が報告し全体で内容を共有した。報告を受け講師の4人から、日頃の情報収集や防災意識を育てる方法についての具体的なアドバイスやコメントを頂いた。災害は防げるものではなく、生活のすべてが崩壊してしまう。これまでの常識が通用しない中でいかに被害を減らし、過去・現在の文化を次の未来へつなげていくことができるかを日頃から考えておく必要があるという助言は、非常に重みのあるものだった。

講演や事例報告でも講師の先生方は日頃からの外部との連携やネットワークづくりが重要であると述べられており、災害対策への取り組みや悩みを近隣館と共有できたことは、本研修において特に重要な成果となったのではないだろうか。



会場の様子



目時氏の講演の様子



泉田氏の事例報告



酒井氏の事例報告



オンラインを併用したグループトークセッションの様子



グループトークセッションの様子



各グループの報告



グループの報告に助言する山内氏

(鮫島由佳、愛知県陶磁美術館 学芸員)

# 表紙館のご紹介

## ■津島神社宝物館

### 【開館時間】

午前 10 時から午後 4 時まで  
(入場は午後 3 時まで)

### 【休館日】

不定、現在リニューアルのため休館中

### 【入館料】

無料

### 【所在地】

〒496-0851  
愛知県津島市神明町 1 津島神社内  
TEL (0567) 26-3216

### 【交通手段】

- 公共交通機関で・・・  
名鉄津島線「津島」駅下車、徒歩 14 分
- 車で・・・
- ・東名阪自動車道弥富 IC から 15 分程度
  - ・無料駐車場をご利用ください。



宝物館内展示



太刀（大原真守作、重要文化財）

## 「愛知の博物館」 No.120

発行日 令和 7 年 3 月 31 日  
編集・発行 愛知県博物館協会  
〒467-0806  
愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂通 1-27-1  
名古屋市博物館内  
TEL 052-853-2655